

令和7年 第13回

羅臼町教育委員会議事録

## 令和7年第13回羅臼町教育委員会

1 日 時 令和7年12月17日(水) 13時30分～13時50分

2 場 所 羅臼町役場 3階 第5・6会議室

3 出席者

教育長	石 崎 佳 典
委 員	葛 西 良 浩
委 員	芦 崎 拓 也
委 員	小 林 真裕子
教育指導主幹	横 澤 英 三
学務課長	八 幡 雅 人
社会教育課長	長 岡 紀 文
総務管理係長	櫻 庭 千 尋

4 欠席者

委 員	佐々木 美 穂
-----	---------

5 傍聴者

なし

6 議 題

報告 第18号 諸会議・諸行事について

7 その他

1. 教育指導主幹通信について

## 【開 会】

○石崎教育長

令和7年第13回教育委員会を開催致します。

本日は佐々木委員が欠席ですが、委員の過半数が出席しておりますので、会議は成立と致します。

議事録署名委員については、葛西委員と芦崎委員にお願い致します。

議事の確認ですが、本日は報告事項として、報告第18号「諸会議・諸行事について」の1件のみとなっております。

議事に入る前に行政報告をさせていただきます。

12月7日日曜日、羅臼幼稚園と羅臼小学校、春松幼稚園と春松小学校の閉園・閉校式典が、それぞれ羅小、春小の体育館で挙行されました。教育委員の皆様にも全員参列頂き、大変思い出深い式典となりました。園児、児童の動画披露やメッセージ、また、参加いただいた先生方や地域の皆さんの表情を見て、両校ともに100年以上の歴史に幕を閉じることの重みをひしひしと感じさせられました。来春開園開校する知床未来幼稚園、知床未来小学校を今まで以上に、地域に愛され、子どもたちに親しまれる幼稚園、小学校にしなければならぬと、決意を新たにしましたところ。あつという間に閉園・閉校式典を迎えました。開園開校もすぐそこまで来ていますので、引き続き先生方はじめ関係の皆さんと協力して、準備を進めていきたいと思っております。

12月9日から始まった第4回定例会が11日に閉会しました。教育委員として1期4年を務めて頂いた佐々木委員が、来年1月24日を以って任期満了を迎えるにあたり、新たに中村美和氏が議員皆様の承認を賜り、1月25日から教育委員を務めることになりましたので報告を致します。

佐々木委員には、4年間精力的に教育委員としてご尽力頂きました。特に幼小1校化の議論がこれから本格化するといった時期に教育委員をお引き受けいただき、本当に様々な切り口でアイデアやご意見を頂きました。1校化した後の校舎が羅臼小学校を活用することになったとき、町民の皆様にメッセージを町長と連名でいち早くホームページに掲載しましたが、佐々木委員からのアドバイスがあつてのことでした。きめ細かく羅臼町の教育行政を見て頂いておりました。これからも違う立ち位置、立場で羅臼町の教育に目を光らせて頂ければと思っております。

それでは議事に入ります。

## 【議 事】

### ●報告 第18号 諸会議・諸行事について

#### ○石崎教育長

報告第18号「諸会議・諸行事について」担当から説明をお願いします。

#### ○学務課長

議案の1ページをお願いいたします。報告第18号「諸会議・諸行事について」です。2ページをお願いいたします。12月から2月までの主な予定を記載しています。学務課所管事項です。本日12月17日に教育委員会を開催しています。教育委員会終了後に園長副園長会議を行います。12月18日から19日に両小学校で指導主事計画訪問が行われます。12月19日には町内会長会議が開催されます。教育委員会からは3点の報告とお願いをする予定です。1点目は羅臼小学校に併設する幼稚園部分の改修設計の進捗状況、2点目は羅臼高校の全国公募に向けた取り組みの報告、3点目は通学路の確保として除雪のお願いを教育長からさせていただく予定です。12月23日に行政懇談会が行われます。12月24日から1月15日は幼小中の冬季休業、12月26日から1月19日は高校の冬季休業、12月27日から1月4日は学校閉庁日、12月31日から1月5日は役場を含め教育委員会年末年始休業となっています。1月12日から15日はパイオニアスクール宮古島交流会の予定です。1月16日は幼小中始業、1月20日は高校の始業です。1月の教育委員会は28日を予定しています。2月2日～4日の葵学園の丸山先生による幼稚園学校訪問は中止となっています。2月16日に高校生の一日議会が開催されます。2月の教育委員会は25日を予定しています。

#### ○社会教育課長

社会教育課所管事項です。12月18日に第3回社会教育委員の会兼図書館協議会を行います。1月7日に令和8年羅臼町20歳のつどいを春松小学校で開催しますので、教育委員の皆様のご出席をよろしくをお願いいたします。講演の講師につきましては、IT企業の(株)ブラキストン 代表取締役 山田 恭平氏をお願いしています。演題につきましては「自分が信じた道の貫き方」となっております。1月9日に第7回うるとらうす！が春松小学校で開催されます。チケットは教育委員会でも扱っていますのでご購入をお願いいたします。1月23日はこまぐさ学級、2月13日はこまぐさ学級の閉級式です。1月24日と2月14日に知床Kidsを行います。

図書館所管事項です。12月29日から1月5日は年末年始の休館です。1月23日に本との出会い講座、1月26日には春小2年生図書館見学が行われます。

郷土資料館所管事項です。12月23日にオジロワシ営巣モニタリング会議が行われ

ます。12月29日から1月5日は年末年始の休館です。

○石崎教育長

報告第18号「諸会議・諸行事について」説明がありました。ご意見や質問等ありましたらお願いいたします。

○全委員

意見、質問等は特になし。

○石崎教育長

報告第18号「諸会議・諸行事について」は承認とさせていただきます。

以上で議事は終了とさせていただきます。

## 【その他】

### ●教育指導主幹通信について

#### ○石崎教育長

その他として、教育指導主幹通信について説明をお願いします。

#### ○横澤主幹

今回は、静岡大学教職大学院の武井 敦史 教授の「育てる」ことと「賭ける」こと、シェル・シルヴァスタイン作「おおきな木」という絵本をご紹介します。

今年もまた旅立ちの季節がやって来ました。節目を迎えると、人はしばしば自らしてきたことの意味を省みて原点に立ち返ろうとします。今回はシェル・シルヴァスタインの手による「おおきな木」という絵本を手がかりに、教育という営みの原点に筆者なりに立ち返ってみようと思います。本書の原作が初めて刊行されたのは1964年ですから、もう半世紀以上も前のこととなります。2010年には小説家の村上 春樹 氏も翻訳を手がけて話題となりましたが、今回はあえて本田 錦一郎 氏の古い訳本を使用してみます。

五つの場面を通して、木は子どもに対して見返りを求めず、喜びを分かち合おうとします。そして、どの場面でもそうすることで木は「うれしかった」ことが記されています。ただ、この作品の中には一カ所だけ、木がうれしかったことが語られた後に言葉が続いている場面があります。男が木を切り倒し、船をつくって行ってしまったシーンの後です。続く言葉は…「だけど それはほんとかな。」です。この一言がこの作品を単なる愛の賛歌にはとどまらない、心のひだを感じさせるものへと高めていると筆者は感じます。この本の原題は「THE GIVING TREE」（与える木）です。けれども「与える」という行為は、ちょっと考えてみるとそれほど単純なことではありません。

「教育という賭け」人は皆、自分がかわいいはずだし、自らの願望を逮げたいという欲も持っています。人間も地球で生存競争を生き残ってきた生物である以上、ほかの動物同様に生命を維持して、より繁栄を謳歌したいと考えるのは当たり前のことです。そしてもちろん、教師も一人の人間です。けれども、どんなに自分の欲を追求して成功したとしても、人生最後の結論は決まっています、そこから逃れることはできません。これがもう一つの「当たり前」です。そして人もほかの動物同様、それを知っているのも、他者へとバトンタッチすることで命の灯をつなごうとします。ただ人の場合、ほかの動物とちょっと違うのは、生命そのものだけではなく、自らの生きた過程でつくりあげてきたものまでもつなげていこうとする衝動を持っていることです…財産であれ、仕事であれ、思想であれ、生き方であれ…。そしてだからこそ、教育という営みが人類の歴史を通じてここまで拡大してきました。これまで数多の宗教が、欲望の弊害と与えることの美德を強調してきましたが、「与える」ことが成り立つのはバトンを受けとる側がいるからです。しかし自分が

相手に対して与えようとしたものが、本当に相手の幸福につながっているかどうか、バトンが受け継がれていくかどうかは、何かを与えようとした、その時点ではわかりません。この意味において、教育とは本質的に「賭け」です。しかも多くの場合、自身ではその結末までは見ることのできない未完の賭けです。教師とは、この未完の賭けを仕事にすることのできる幸運な人たちです(と筆者は思っています)。「だけど それはほんとかな。」というこの本に出てくる不意の投げかけは、まさに「与える」ことにともなう不安感、「賭け」としての側面を鋭く照射しています。教育という営みがおもしろいのは、それが他者の幸福を願って行う大きな賭けだからだと筆者は思っています。けれども昨今の教育活動の隅々に至るまで基準やマニュアルを求めずにはいられない社会の風潮を目にするとこの原点を忘れてしまっているのではないかと感じるものがまあります。教育が命をつなぐ賭けであるとするならば、自らの美しいと感じるものに心を込めて潔く…そう考えてこの仕事に向き合ったほうが、教師にとっても子どもにとっても、日々の生活はもっと輝いたものになるのではと思うのですがいかがでしょうか？

教師の仕事に関わる本質的な考え方だと思いました。「おおきな木」は15年程前に村上春樹さんが訳をしています。「だけど それはほんとかな。」を村上春樹さんは、「それで木はしあわせに…」「なんてなれませんよね。」と訳しています。原文は「And the tree was happy… but not really」です。「木はしあわせだった」「しかしほんとはではない。」という意味です。原文に近いのは村上春樹さんの訳だと思いますが、そうした場合、武井教授の文が成り立ちません。武井教授が本田錦一郎氏の訳を選んだのはここにあるのかなと思いました。訳によって解釈が違ってくることが興味深く思ったところでした。

パイオニアスクールの宮古島交流会ですが、交流会への参加は各校から1名ずつ小学生から高校生までの4名です。今回は、小学校、中学校、高校に同時刻に訪問する予定です。中学生と高校生は訪問先の学校の授業に参加することになっていますので、非常に勉強になるのではないかと考えています。交流会の内容については、後日ご報告させていただきます。

○石崎教育長

教育指導主幹から報告がありました。ご確認やご質問がありましたらお願い致します。

○全委員

確認、質問等は特になし。

○石崎教育長

事務局から連絡報告等がありましたらお願いします。

○学務課長

閉園・閉校式典にご出席いただきありがとうございました。開園・開校に向け、園歌と校歌の制作を加藤 登紀子さんをお願いしています。年内には完成すると思いますので、教育委員の皆さんにもお聴きいただきたいと思っています。

次回の第1回教育委員会は1月28日水曜日午後1時30分からを予定していますのでよろしくお願い致します。

○石崎教育長

委員の皆さんから全体を通してのご意見、確認事項がありましたらお願い致します。

○全委員

意見、確認事項は特になし。

○石崎教育長

以上で令和7年第13回教育委員会を終了させていただきます。